

# 新聞部

平成30年4月10日 (火)

久居高新聞

# 号外

## 特集 新聞部に入ろう

新入生諸君は、入部する部活動をもう決めているだろうか。新聞部指導歴13年、顧問の田中先生に新聞部の魅力について聞いた。

### 部員の名門復活へ 新入生に期待

「三年生が卒業し、部員がゼロなんです！このままでは部がつぶれてしまいます！」田中先生は突然こう切り出した。目には涙が浮かんでいる。久居高校新聞部は「三重県高校新聞コンクール」入賞の常連で、「近畿高校文化祭」にも毎年のように出場。しかし近年は部員不足に悩まされている。名門復活なるか。「3人、



完成した紙面を手に語る田中先生。腕には「新聞」の腕章。

### 速報性が命 デジタル時代に 校内を取材

「新聞部は、学校行事や部活動の記事を掲載した『久居高新聞』を発行します。昨年度は8号出まし

いや1人でもいい」田中先生は新入生に希望を託す。た」と田中先生。新聞はA3版のカラー。廊下に掲示する。昨年度は、教員が中学校訪問をする際の広報資料としても活用された。部員は、遠足や体育祭、文化祭を、デジタルカメラとメモ帳を持って取材する。学校行事はすぐ記事にする速報性が命だという。「入学式の記事を夏

### 認知度向上 感想・取材依頼が 増加

「昨年年度は先生や生徒から、新聞への感想や取材依頼をもらうことが増えたという。うちの学校には新聞部がある、と少しは認知してもらえたかな」

### 新聞は 民主的で健全な 学校の証

「学校に生徒が発信できるメディアがある意義は大きい」。学校新聞の存在は、民主的で健全な学校であることの証だ。田中先生は考える。「よい学校は生徒の手で作るもの。久居高校のためにともに新聞を作る仲間が欲しい。それに部員がいたらこんな自作自演のインタビュー記事を書かなくて済みますからね」。田中先生は笑った。

### コミュカ・段取り力・文章力… 新聞部にはメリットいっぱい

- 1、コミュカがつく  
先生や生徒、時には学校外の方に取材をしなければならぬ。友達以外の人と話すチャンスだ。
- 2、段取り力がつく  
いつ・どこで・どんな行事があるか。誰に・何を取材するか。いつまで記事や紙面を完成させるか。見通しを立てて動くことは社会人に必須の力だ。
- 3、文章力がつく  
限られた文字数でいかに多くの情報を伝えるか。新聞記事は、ルールを知り訓練すれば上達する。簡潔で論理的な文章を書く力は入試で生きる。
- 4、緑の腕章の魔力  
校長室にたつて卒業式で、三重県高文連「新聞」の腕章をつければどこでも入れる。自由に動ける。博物館や美術館も無料だ。

遠足、文化祭、芸術鑑賞会など、たくさん伝えるべきことがあったのに」。先生は悔やむ。「学校行事があったことを報告するだけでなく、事前準備も記事にできる。影響があったか、どう変わったかも追いかける」。やるべきことが見えてきた。

「学校に生徒が発信できるメディアがある意義は大きい」。学校新聞の存在は、民主的で健全な学校であることの証だ。田中先生は考える。「よい学校は生徒の手で作るもの。久居高校のためにともに新聞を作る仲間が欲しい。それに部員がいたらこんな自作自演のインタビュー記事を書かなくて済みますからね」。田中先生は笑った。

＊ 活動時間 いつでも  
＊ 活動場所 どこでも